

磐田市アーチェリー協会

加盟人数 28名
代表者(会長) 河島 直明
創立年 昭和62年4月

【組織】

1. 協会の概要

磐田市アーチェリー協会は昭和62年4月に設立し、同時に磐田市体育協会、静岡県アーチェリー協会に加盟した。設立当初は7名の会員でスタートしたが、現在は28名を数えるに至っている。

練習場は、当初は東大久保運動公園の一画を借用して練習をしていたが、平成19年に磐田市営アーチェリー場が同運動公園内に完成し本格的な練習が出来るようになった。

また、設立当初から磐田市アーチェリー協会と称していたが、平成17年の磐南5市町村の合併を機に、市民へのより一層の普及と会員の増加を図るために、親しみやすい名称として磐田アーチェリークラブに変更した。その後、再度名称変更を行い、現在は磐田市アーチェリー協会と称している。

2. 協会の変遷

昭和62年 磐田市アーチェリー協会設立
磐田市体育協会・静岡県アーチェリー協会に加盟

63年 東大久保運動公園を練習場とし借用
静岡県4月例会開催（以後毎年開催）

平成4年 城山旧弓道場を短距離練習場とし借用

9年 設立10周年
倉西川調整池を長距離練習場とし借用

17年 磐田アーチェリークラブに名称変更
城山旧弓道場、倉西川調整池の練習場から退去

19年 設立20周年
磐田市営アーチェリー場完成

21年 磐田市アーチェリー協会に名称変更

3. 役員の変遷

	<会長>	<理事長>
昭和62年～平成10年	伊藤万司	伊藤寿彦
平成11年～平成13年	伊藤寿彦	半場久博
平成14年～平成16年	半場久博	会長兼務
平成17年～平成18年	河島直明	鈴木 勝
平成19年～	河島直明	半場久博

4. 主催の競技会

設立翌年の昭和63年4月より平成16年4月まで、

主管支部として東大久保運動公園のグラウンドにて静岡県アーチェリー協会の4月例会を開催してきた。

全日本選手権、国民体育大会の予選を兼ねた毎年のシーズン最初の月例会として好評を博してきたが、高校生を中心に参加人数が増加してきたことなどから、会場の都合により、現在は毎年6月にエコパのある小笠山運動公園多目的広場にて浜松市アーチェリー協会と共同にて6月例会を開催している。

また、磐田市内の競技会として毎年3月より12月まで磐田市月例会を開催している。

【現在の活動状況】

1. 競技の魅力

アーチェリーは、弓に矢をつがえて放すというもっとも簡単なスポーツの一つである。各人の体力にあわせて弓の強さを変えることで、老若男女を問わず、身障者も対等に競技することができる。また、始めてから2～3年でトップクラスになることができる比較的上達の早いスポーツでもある。

しかしながら、それだからといって楽なスポーツかというところもいえない。競技会になると、天候に関わらず大雨でも強風でも開催され、競技は一日中行われるため、肉体的にも精神的にもタフさが要求されるスポーツである。



2. 活動状況

(1)体験会

残念ながらアーチェリーは、マイナースポーツの一つであり、一般の市民が競技会や練習風景を見学したり、弓矢に触れたりする機会はほとんどない。そのため、平成17年より初心者講習会とは別に、誰でも気軽にアーチェリーに触れてもらえるように体験会を開催している。

体験会では協会が用意した初心者用の弓具を使用し、的の3～5m手前から実際に弓に矢をつがえ

射ってもらう。初めての方がほとんどであり、的に矢が当たるだけで感嘆の声が上がる。

参加者の募集は、磐田市の広報を通じて行っているため、体験会に参加し興味を持った人が、講習会に参加するようになり、講習会への参加人員の増加にもつながっている。

(2)初心者講習会

協会の設立以来、市民へのアーチェリーの普及と協会の会員拡大を目的に、毎年2回、春と秋に初心者講習会（初心者教室）を開催している。参加者の募集を磐田市の広報に掲載することにより市内へ幅広く声を掛けている。

講習会は、1回1時間30分を3日間行い、弓具は協会所有の初心者用を貸与し会員が指導にあっている。講習会は3日間と短期間のため、アーチェリーの基本的な内容を教えるにとどまっている。しかしながら、最終日の風船割りでは、自分が狙った風船に矢が当たった時は、アーチェリーの楽しさと爽快感を味わうことが出来る。

平成16年のアテネオリンピックにて、日本の山本博選手が銀メダルを獲得したことや翌年の磐南5市町村の合併を機に、講習会に参加する人数も飛躍的に増加しており、特に今年の春季講習会は予想を大幅に上回る17名もの参加があり、弓具の準備が間に合わないなど、うれしい悲鳴を上げている。

最近では特に小中学生の参加が増加しており、将来の会員増加が期待される。



(3)月例会

毎月会員を対象に月例会を開催している。

競技内容は、一般的には90m,70m,50m,30mを各36射、または50m,30mを各36射の合計点で勝敗を決めているが、初心者でも気軽に参加出来るように、30mを36射2回、冬場はインドアの競技内容に合わせて18mを30射2回行い、その合計点で勝敗を決めている。

最近では年配者が多くなり、本来の目的である会員の競技力向上よりも会員相互の親睦に重点が移っているようである。

3. 射場の確保

協会の設立当初は、市内に射場がなく、浜松の射場で練習をしていたが、昭和63年に東大久保運動公園の一面を借用し練習場とすることが出来た。

また、平成4年には城山球場北側の旧弓道場を短距離用とし、倉西川調整池を長距離用として借用することが出来たが、建物の老朽化および区画整理により両練習場とも使用が困難になった。特に旧弓道場は雨天でも練習が出来たため、この練習場を失ったことは非常に残念な出来事であった。

そこで、残った東大久保運動公園の練習場を恒久的な射場とすることを磐田市に働きかけてきたが、平成19年に念願が叶い、磐田市営アーチェリー場として整備していただいた。普段の練習はもとより、体験会や初心者講習会、毎月の月例会等大いに活用している。

4. 優秀選手の輩出

将来有望な選手として、現在浜松学芸高校2年の小笠原琢磨選手があげられる。

平成16年秋季初心者講習会に小学校6年で参加し、父親がアーチェリーの経験者ということもあり、めきめきと腕を上げ、平成18年の第1回日本キャデットアーチェリー選手権大会で優勝、翌年の第2回大会でも3位に入賞した。

また、昨年の大分国体では高校1年生ながら少年男子団体の一員として3位入賞に貢献、本年も少年男子団体の静岡県代表として選出され、東海ブロック大会に出場することが決まっている。

5. 今後の展望

設立以来すこしずつではあるが着実に進歩してきた磐田市アーチェリー協会であるが、多くの問題を抱えている。

その最も大きい問題は、ここ数年会員数が伸び悩み、また会員の高齢化が進んでいることである。

体験会や初心者講習会には小中学生を含む多くの市民に参加していただいているが、会員として残る方はわずかである。今後、あらゆる機会を通じ、今以上にアーチェリーの楽しさ、魅力を伝えていくと共に、会員のきめ細かな指導が欠かせないと考える。

また、この問題は磐田市に限らず、県内各市のアーチェリー協会も程度の差はあれ同様な問題を抱えている。そのため、静岡県アーチェリー協会、および各市の協会と連携し対応を図ることも必要である。

そして、数年後には会員数が飛躍的に増大し、その中から第2、第3の小笠原選手が生まれることを期待したい。